

「慶北大学校サマースクール参加報告書」

京都大学人間環境研究科修士2年生 (湯笑)

今回参加させて頂き、「慶北大学校サマースクール」について、報告を致します。

1. 所属：人間環境研究科 修士2年生
2. 研修期間：平成25年8月7日から平成25年8月21日
3. 研修内容：
韓国語の学習
韓国文化体験
韓国人の学生との交流
4. 研修の成果と感想等

日本以外、初めて別の国へ行き、交流学生の身分として研修を受けました。まず、自分の思い通りに頑張れば、世界中どこでもいつでも行けると私は強く信じています。去年、韓国人の友達から韓国語を少しずつ教えてくださって、これをきっかけにこのサマースクールについて関心がありました。今回、唯一の留学生のメンバーとして参加させていただき、何より幸いです。また、私にとってこの2週間で韓国語の習いだけじゃなくて、韓国文化の体験や日韓両国の学生との深い交流できる貴重な機会でした。

全体的に今回のサマースクールは二つの部分を分けました。韓国へ行く前に、京大で2週間の会話教室を行いました。参加者はこのサマースクールの全員と京大で留学する何人の韓国留学生です。毎日1時間程度で短いです。が、いっぱい話が出来て楽しかったです。

第二部分は韓国での研修という事です。8月7日に韓国のテグに到着し、慶北大学の学生から案内して頂き、順調に入寮しました。そして、日本有名な大学から集まった大学生30人と一緒に2週間の言語授業と文化体験を受けました。授業は朝9時から昼まで韓国語の発音から教えて頂きました。担当者は日本人の先生です。文化体験の部分は韓国の学生達と一緒に韓服、陶器、韓紙等体験しました。他、プサンや慶州等へ観光に行き、21日に無事に日本へ戻ってきました。

東アジアの地域である日中韓とは、歴史的にも文化的にも切っても切れない関係を持っています。私は元々言語に深い興味があります。今の専攻は中日の伝統演劇ですが、もし色々な国の人とコミュニケーションができれば、伝統演劇の専門の世界をもっと広げようと思っています。今、韓国語を第三外国語として目指していますが、今回の「慶北大学校サマースクール」を応募しました。3年前に、初めて日本へ来た私は、同じ信念で日本語を習って、京都大学へ進学しました。日本でたくさんの日本人の友達が出来て、世界舞台で輝いている歌舞伎、能、文楽等伝統演劇の素晴らしさに惹かれています。在日の時間は未だ短いです。日本は第二の故郷のように心から愛しています。韓国へ行ったことがないですが、韓国人の友達から色々なお世話になって、様々な情報を教えて下さいました。現地に行ってから、韓国人のおしゃれや性格の明るい特徴をよく分かりました。凄く暑い時期なのに、真剣に案内して下さって、何度も助けて下さった韓国の学生達に感動しました。一方、日本のチームも積極的に交流活動を参加し、自分らしく姿を韓国の学生に見せてあげました。

今回のような国と国の名校の交流活動とは、お互い生活の融け合うじゃなくて、お互いに生活習慣や問題に対する考え方の納得だと考えています。一つ一つの国、其々の国の方々、やはり自らの誇りを持っています。残念な事ですが、領土等問題をめぐって、近年、日中韓は相互の緊張関係が続いていました。簡単に解決できるわけではまりませんが、常に相手の立場で考えてみると、必ず乗り越えられると信じています。私は来年の卒業予定で、先生になりたい気持ちが前よりどんどん膨らんでなりました。知識の上、自分の経験や数々の国の美しさ、人々の親しさを子供達に伝えたいと思います。今皆さんから色々なご恩は、将来の子供達や社会にお返しします。この終極の目的を達すため、自分がまだまだ未熟ですが、もっと長い時間の努力をしなければいけない覚悟を持っています。若者に負けず、時間を無駄なし、いつでも頑張ります。